

精神障害者に対する就労支援過程における 当事者のニーズと行動の変化に応じた 支援技術の開発に関する研究

2009年3月

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
障害者職業総合センター

まえがき

障害者職業総合センターでは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、わが国における職業リハビリテーション・サービス機関の中核として、職業リハビリテーションに関する調査研究をはじめとして、さまざまな業務に取り組んでいます。

この報告書は、平成 19～20 年度に当センターの研究部門が実施した「精神障害者に対する就労支援過程における当事者のニーズと行動の変化に応じた支援技術の開発に関する研究」の成果を取りまとめたものです。この研究では、精神障害者の中でも統合失調症の方の就労支援の現状に焦点を当て、支援者が当事者のニーズに応じてどのような支援行動を取っているのかについて分析を行い、これまで経験則で進められていた就労支援における支援行動を網羅的に明らかにすることを試みました。

この研究を進めるに際しては、多くの方から多大なご協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

この報告書が多くの関係者の方々に活用され、わが国における職業リハビリテーションをさらに前進させるための一助になれば幸いです。

2009 年 3 月

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構

障害者職業総合センター

研究主幹 荻部 隆

執筆担当者

小池 磨美（障害者職業総合センター研究員）

小松まどか（障害者職業総合センター研究員）

本研究にご協力いただきました関係協力機関のみなさま並びに障害者職業センターのみなさまに対しまして心より感謝申し上げます。

また、研究方法について、多事多端の折、ご指導をいただきました立教大学社会学部長木下康仁先生に心から御礼申し上げます。

研究担当者

本研究は、障害者職業総合センター障害者支援部門で担当した。

研究担当者・研究担当時の職名、担当した年次は下記のとおりである。

小泉 哲雄	障害者支援部門	統括研究員	（平成 19 年度）
川村 博子	〃	統括研究員	（平成 20 年度）
山田 文典	〃	主任研究員	（平成 19 年度）
小池 磨美	〃	研究員	（平成 19～20 年度）
小松 まどか	〃	研究員	（平成 19～20 年度）
加地 雄一	〃	研究協力員	（平成 20 年度）

目 次

概 要	1
第 1 章 研究の背景と目的	
第 1 節 背景	5
1 精神障害者の就労と就労支援の現状	5
2 関係機関の就労支援の状況	5
3 就労支援のプロセス	7
4 就労支援ノウハウの共有化の必要性	8
第 2 節 目的	9
第 3 節 分析の視点	10
第 2 章 方法	
第 1 節 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（修正版 M-GTA）について	13
1 概要	13
2 本研究において修正版 M-GTA の分析手法を取り入れた理由	15
第 2 節 本研究の方法	17
1 調査対象者	17
2 調査方法	18
3 分析方法	18
4 信頼性と妥当性について	24
第 3 章 結果と考察	
第 1 節 統合失調症者の就労支援の展開	27
1 分析の背景	27
2 結果	27
3 考察	33
第 2 節 就労支援における支援者の支援行動について	34
1 分析の背景	34
2 結果	34
3 考察	51
第 3 節 統合失調症者の意思決定と支援行動の関係	54
1 分析の背景	54

2	結果	55
3	考察	66
第4節	まとめ	71
1	循環する複合的な支援のプロセス	71
2	支援者と当事者の協働による支援の展開	72
3	支援プロセスとしての共通性	72
第4章 総合考察		
第1節	本報告書における研究上の意義	77
第2節	実践への応用	78
1	就労支援の動きを理解するための活用	78
2	共通理解を図るための材料としての活用	78
3	これまでの支援の振り返りと再認識のための活用	79
4	それぞれの機関における支援プロセスに応じた改変	79
5	協働作業を通じた信頼ある関係性の構築	79
第3節	本研究の限界と今後への期待	80
引用・参考文献		81

概要

本研究は、「精神障害者に対する就労支援過程における当事者のニーズと行動の変化に応じた支援技術の開発に関する研究」の研究成果として取りまとめたものである。これまで実施されてきた精神障害者の就労支援における支援者の支援行動に焦点を当て、就労支援における支援ノウハウの共有化に向けて検討を行った。

本報告書は、4章から成り立っている。

第1章では、本研究の背景と目的について記述している。就労支援のプロセスについては、システムとしてのプロセスや事例を通したプロセス、就労支援のノウハウの整理などによって、幾通りかの考え方が示されているが、精神障害者の就労支援におけるノウハウを共有化するための具体的な支援方法や支援行動の流れについて述べられている研究は少ない。今後、精神障害者の就労支援を一層進めるためにも、就労支援に関するノウハウを、異なる分野における支援者や新たに支援に携わる支援者も含めて共有できるように明確な形で示すことが求められている。そこで、本研究では、精神障害者の中でも統合失調症の者に焦点を当て、これまで職業リハビリテーション機関や一部の医療・社会福祉機関で行われている精神障害者（統合失調症の者）（以下「統合失調症者」という。）の就労支援に係る支援者の判断・行動について分析し、就労支援の際に必要な知識と技術、及びこれらに基づいた就労支援のプロセスを、文章化された形式知として明らかに示した上で、統合失調症者に対する就労支援のノウハウの共有化に向けて、新たな視点で捉えなおした。

第2章では、本研究の方法について記述している。第1節では、本研究の分析手法として取り上げた修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、「修正版M-GTA」という。）の概要を述べ、第2節では、本研究の分析方法について、詳細な分析手順も含めて記述している。

第3章では、修正版M-GTAの分析手法を用いて分析を行った結果と考察を記述している。本研究では分析の視点を3点に絞って分析を行ったことから、それぞれの分析結果を示し、これらの結果を受けて、統合失調症者の就労支援に特徴的な支援過程についてまとめている。

第1節の統合失調症者の就労支援の展開に関して分析した結果においては、従来から示されてきた時系列的なプログラムの流れと概ね同様のプロセスが得られたが、一方向に進む支援ではなく、常に支援の方針や内容を決める支援から各プログラムを経る、循環した支援が展開されていることが明らかになった。

第2節の就労支援を展開する上で行っている判断と支援行動の関係に関して分析した結果においては、当事者と事業所、周辺領域についての支援者の状況判断と見通し、及びそれに対しての支援行動プロセスが明らかになり、支援者の判断と当事者の意思決定の循環に基づいた方針決定を基点として、同時期に複数の支援行動が波状的に行われており、繰り返しの中でそれぞれの支援が相互に影響を及ぼしながら展開されていることが分かった。

第3節の統合失調症者の意思決定と支援行動の関係に関して分析した結果においては、就労支援にお

いて当事者の意思決定は重要視されており、支援者自らの判断のみで支援を進めているのではなく、当事者の意思決定を尊重しながら、主体性を育てる支援や、考えや価値観を広げる支援を循環的に展開し、当事者が自分らしくかつ現実の状況に応じた意思決定を行うためのプロセスをとって、就労支援が進められていることが明らかになった。

第4節では、統合失調症者の就労支援として明らかになった特徴についてまとめている。3本の分析結果から、段階的プロセスではなく、支援行動に基づいた就労支援全体の動きを明らかにすることができたと思われる。特に、統合失調症者に特徴的な支援プロセスとしては、同時期に複数の支援が波状的に行われており、繰り返しの中で変化するという循環する複合的なプロセスであり、また、支援者と当事者の協働による支援が展開されていること、さらに、それぞれの機関による統合失調症者に対する就労支援の考え方による支援形態の違いはあるが、支援プロセスという流れから見ると、共通性の高いプロセスであることが示唆された。

第4章では、研究上の意義、実践への応用及び今後への期待という観点から考察を行った。研究上の意義については、実際に行われている就労支援全体のプロセス（動き）を提示し、実際の就労支援の支援行動が、当事者の意思決定に基づいて当事者や環境への働きかけ及びその両者の調整として展開され、常に複数種類の支援行動が、相互に作用しながら展開されていること、また、その支援行動による結果と当事者や環境のそれぞれの特性から生じる状況の変化が相互に影響しあい、再び当事者の意思決定から始まる支援行動が生じているといった循環する複合的な支援行動を支援者が担っているということを示している。また、実践への応用として、本研究が分析結果を現場へ還元することを目指した研究であることから、統合失調症者の就労支援において、本研究で得られた分析結果が当事者のニーズに応じた支援や具体的な支援行動に関する就労支援の動きを理解するため、分析結果によって得られた具体的な支援行動については就労支援に携わる支援者間におけるノウハウとしての共通理解を図るため、またこれまでの支援の振り返りと再認識のための活用の可能性を検討し、さらに各機関によって応用され検討された上での改変による支援の向上と、支援者と当事者の関係性を見直しや再構築に向けての整理を図った。

最後に、今後への期待については、本研究によって統合失調症者の就労支援における支援プロセス（動き）の全体像を捉えることはできたが、実際の就労支援の支援プロセスは様々な支援が複合的に行われていることから、意思決定という視点からの支援プロセスの分析と同様に、支援行動の他の視点からの分析を行うことによって、さらに詳細な支援行動の動きやノウハウを見出すことができる可能性があること、また、支援プログラムの共通性を見出すことによる、より効果的な就労支援のあり方について議論が進められることを期待したいこと、とまとめている。